

平成27年度 PTA 日韓交流事業 参加報告書

平成27年10月13日(火)～10月16日(金)



鳥取県 PTA 協議会 理事 松本 美恵子

期 日	訪 問 先 等
10月13日(火)	米子空港出発・歓迎晩餐会
10月14日(水)	江原道教育庁・大龍中学校・玄川高等学校・歓迎晩餐会
10月15日(木)	船橋荘視察・松稜初等学校
10月16日(金)	仁川空港出発

参加者：県職員三名・鳥取県高等学校PTA連合会三名・鳥取県PTA協議会三名

10月13日

仁川空港到着後、教育局長主催の歓迎晩餐会へ。それぞれの代表の挨拶、贈り物の交換、記念撮影。食事をしながら、名刺交換や自己紹介をした。会話は英語、あるいはそれぞれの通訳を介して、鳥取県の観光名所である鳥取砂丘や県内の温泉、ピョンチャンオリンピックについて話し、和やかな時間を過ごした。温かく迎えていただいて、緊張もほぐれた。

10月14日(水)

【江原道教育庁】江原道教育についての広報DVDを拝聴、説明を受けた。副教育監の挨拶：「江原道教育2015は道民が主体となり、全てのことをみんなで決定する。幸せな学校をみんなのためにつくりたい。日本では、ゆとり教育が行われていたがどのようなものだったのか。また、どのような認識であったか。韓国でもゆとりを取り入れてみたい。交流を通して、日本と韓国が大きく発展することを願う。」



江原道教育庁

【大龍(テリョン)中学校 1】

校訓：夢・勇氣・知恵のある人になろう

◇校内の様子

2007年3月に開校し江原道教育をふんだんに盛り込んだ生徒数約1000名の中学校。道徳の授業は、先生の質問をグループで討議するスタイルで進められていた。互いの意見交換をした後、それぞれの意見について話し合うことを、社会に出る前に身に付ける将来を見据えた教育の一つ。どの生徒も、しっかりと自立して見えたのはそのせいだろうか。休憩時間の生徒たちは、礼儀正しくのびのびといたっていた。



歓迎の演奏会



道徳の授業風景

【大龍(テリョン)中学校 2】

◇意見交換会

※鳥取県側の質問※

日本では、子供達が使用するラインであるとか、メディア関連の問題が非常に多く、低年齢化もしている。韓国ではどうか。

※江原道側の回答※

韓国もおなじように、カカオトーク(日本のライン)というアプリの利用での問題が非常に深刻である。ネット依存症と診断される子供が増えている。

※鳥取県側の質問※

ネット依存症と診断されるまでの経緯は？

※江原道側の回答※

毎年、小4と中2を対象に大学教授が作ったアンケートを行い、その回答を見て、専門機関への相談を勧める。勧めても、専門機関へ行くかどうかは保護者が判断する。

年に二回、保護者会を開き、ネット教育をしている。

10月15日(木)

【玄川(ヒョンチョン)高等学校:フリースクール 1】

◇校内の様子

校訓: 尊重・成長・共有

2015年3月に開校。広大な敷地内に校舎と寮(教職員と生徒用)がある。定員は135名で現在45名。30名は経済的に困窮している家庭、15名は新しい教育を希望。

教育目標は、個人の可能性を信じること。個人の速度を大切に、相手を待つことを重視している。また、共同体意識を強く持ち、週に二回の共同体会議の開催等、みんなが幸せになれる教育に力を入れている。

生徒たちは、クッキングスタジオでデザートを作り、カフェテリアでバリスタ教育を受け、将来の仕事為に技術を身に付けている。また、ヒョンチョン高等学校は自身が勝手に思い描いていたフリースクールのイメージを覆す斬新な学校であった。どこに、何に力を入れるのかを机上論で終わらせず、現実のものとする韓国の姿勢を見習うべきである。



玄川(ヒョンチョン)高等学校

【玄川(ヒョンチョン)高等学校:フリースクール 2】

《鳥取県:団長の挨拶》

本日は、盛大な歓迎をしていただきまして、とても感動しています。ありがとうございます。鳥取県では、保護者会を開いても同じ人しか参加せず、参加してほしい人にきていただけないのが、悩みでもあります。江原道の悩みも教えていただきながら、互いに共有し合い、充実した意見交換を行えますようよろしくお願いいたします。

◇意見交換会

《横城市保護者会長》

江原道でも保護者の参加率は低くなっています。市の26の学校が集まってフェスティバルを開催して、昔のような横の繋がりを大切に、断絶していた意見交換を復活させ、子供も保護者も、みんなで一緒に様々な体験をしたいと思っています。道の教育目標の一つには、みんなが幸せになること、があります。何事も、みんなと一緒に、が基本だと考えています。

※鳥取県側の質問※

全寮制となっているが、お子さんに会えないのは寂しくないか？また、この学校には何を期待しているか？

※江原道の回答※

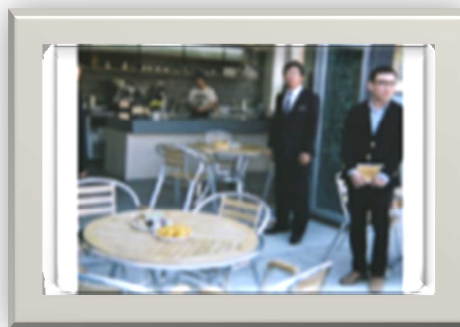
週末には家に帰って、月曜日に寮に戻るので寂しくはない。成長した我が子の様子を楽しみに待っている。子供だけでなく親も一緒に勉強している。卒業までに、将来の目標を見つけてそれに向かって進んでほしい。どんな仕事か、も大事だとは思いますが、どんな人間になるのかを重視しているから、この学校ではそれを実践しているので入学させた。また、地域の皆さまとの交流も大切な授業となっているので、社会勉強にもなっている。

※鳥取県側の質問※

卒業後の進路先までケアをされているのか？

※江原道の回答※

進学が目的ではないので、必ずしも大学へ行くのではない。
どんな人生を生きるかを見つけるのが目的であり、就職先も自分で見つける。
自分がしたいことをする。



【松壤(ソンヤン)初等学校】

校訓: 夢は大きく・行動は正しく・考えは深く

◇校内の様子

1943年7月に開校し、1947年に現在の場所に移転。年々過疎化が進み、生徒数が減少し20名まで落ち込んだ。10名以下では廃校となってしまうことから、教職員、保護者、地域の方が協力し合って現在は120名の生徒がいる。道の取組の一つであるが、特色ある学校教育として、ソンヤンでは外国語授業に力を入れている。英語は週2～3時間、日本語は週1～2時間、中国語も週1～2時間である。教え方にも工夫を凝らし、最新機器も投入している。

ニュージーランドの都市と姉妹校となり、交流活動を進めている。また、年に二回の外国語大会や外国語キャンプを行っている。放課後には希望者が集まり、英語を勉強して英語放送局等の新しい放課後授業にも力を入れている。

費用面では、かなり優遇されていて、2500万ウォンの学校予算とは別に、江陵市から3000万ウォンの支援費を頂戴している。近くの水力発電所がスポンサー企業として、学校に寄付をしてくれる。

様々な応援を糧に、これからも特色ある外国語授業を行い、生徒数が増えていくことを希望している。そして、学校存続にご尽力くださる地域のみなさんとの交流も大切にしたい。

※鳥取県側の質問※

生徒数が増えたのは、遠くからも通っているのか？交通手段は何か？負担ではないか？

※江原道の回答※

遠くからも通っている。保護者が車で送迎している。現在、韓国では5つの教育庁でスクールバスを運営している。江原道教育庁では、再来年から導入される予定である。保護者アンケートでは、教育方針等満足度が高いので、送迎はさほど負担には感じられていないようだ。

※鳥取県側の質問※

鳥取県では小学校にスポーツクラブがあるがソンヤンでは運動の取組はどうか？

※江原道の回答※

ソンヤンでは、歩くことに力を入れている。江原道ではスポーツに支援をしている。生活体育という科目があり、大勢の先生が学校に派遣されている。その中に、土曜スポーツという運動の機会がある。



県P協代表三名

随想 RANDOM THOUGHTS

<韓国バス・・・>

バスでの移動は、8月に北海道でバスに乗って以来、一か月ぶりであるが、それまでは自分が乗り物酔いをするなど思ってもみなかった。神戸まで乗る『初めてのスーパーはくと』は楽しみだったのにもかかわらず30分で何だか気分が優れなくなった。そのあと『白くまがマスコットのAir Do』で、更に気分が悪くなり（それでも必死の思いで白くまは購入した）、新千歳空港から乗ったバスで最高に気分が悪くなった・・・のを頭に置き、『韓国バスはスゴイですよ、揺れますよ』と前情報を頂いていたので覚悟を決めて、ビニール袋を何枚も準備して、酔いにくいと言われる席にすわった。予想通り、30分もしないうちに何だか気分が優れなくなった。前情報通り、運転がものスゴク荒い。荒い⇨ハイスピード。揺れることよりも、こんなに大きなバスがこんなにスピードを出していいのかな？とそちらの方が心配になってきた。韓国内は全てバス移動のため、乗る度に、揺れよりスピードが気になってしかたなかった。しかしながら最終日の四日目には、朝食後の乗車であったが、空港までの30分間、快適な『高速バス』の旅をすることが出来た。

<フリースクールで・・・>

ヒョンチョン高等学校の帰り際、日本語の先生と話しながら（とても日本語がお上手）、バスに向かって歩いている途中で一人の女子生徒が小走りにやってきて、先生に何か話しかけた。先生は頷き、私に「〇〇さんは日本人の方と日本語で話すのを楽しみにしていました。」と言った。女子生徒はじっと私を見つめている。「そうですね、楽しみにしていてくれてどうもありがとう。」「ありがとう」「とても素敵な学校でした。学校は楽しい？」「楽しいです。」「私も、この学校なら通いたいと思いました。カフェと図書室がとても良かったです。生徒さんの作られたキャラメルラテはとてもおいしかったです！日本語は好きですか？」「はい、とても好きです。」「そう言ってもらえて、嬉しいな。」「チャンスがあったら日本に来てね、また会えたらいいね。」「はい。」この学校なら、この女子生徒の夢はきっと叶うだろう。新しい校舎で新しい教育を身に付け、みんなが幸せになれるよう悩みも問題も共有できる学校なら、生徒たちの夢は、必ずや実現するだろう。そして私達日本人も、子供達の夢や希望を叶えるための努力を怠ってははいけない。子供時代はその先の大人時代に比べればほんの僅かな年数だ。全力を尽くし



悔いの残らぬようにしたい。まずは私の出来ることから始めよう。自身の得意分野を活かすことは他者の苦手分野をカバーすることに繋がる。一人一步は百人で百歩、みんなで輪（和）になって進んだらたら、すぐに幸せに近づき、幸せになれるだろう。

<訪問を終えて・・・>

連れて行って頂いたからこそ、苦勞なく戻って来れた。県職員のお三方には感謝している。そして、高P連と県P協の皆さんとは、連帯感という絆が出来た。また一緒に、鳥取県の将来を担う子供達を支える活動が出来た日を心待ちにしている。そして、温かくお迎えして頂いた江原道の皆さんのお心遣いは忘れない。手づくりのお菓子や部屋の飾り付け、横幕等、歓迎の気持ちを感じ取ることが出来た。末長く日韓交流事業が続くことを願っている。そして、江原道では2018年開催予定のピョンチャン冬季五輪へ向けて、準備が進んでいる。「五輪、楽しみですね」と問かけると、どの人も嬉しそうにスキー場や周辺施設の説明をしてくれた。ご成功をお祈りする。

報告事項

平成27年度PTA日韓交流事業について

平成27年度大韓民国江原道とのPTA交流について別紙のとおり報告します。

平成27年10月26日

鳥取県PTA協議会 会員
倉吉市中学校・養護学校PTA 連合会 副会長
鳴川中学校PTA 会長

衣 笠 優 子

5 詳細

(1) 江原道教育庁訪問

■江原道教育施策説明

江原教育のビジョンは「皆のための教育」。その指針は、幸せな学校、そして共にする江原教育。
(=学生、保護者、教職員だけでなく道民皆が江原教育の主体であり、構成員皆の参加で決定される) という説明を受けた。

(2) 大龍中学校訪問 (テリョン)

■学校紹介 (施設見学)

2014年に「ユネスコ協同学校」に指定され、グローバル市民教育として「日韓教員交流」や、「スマート教育」などの指定の学校でもあり、環境や人権実践教育などの「ESDプログラム」の常時運営も行われるなど新しい取り組みがなされている学校を見学した。

そして昼食には環境にやさしい給食を目指している学校給食を試食した。江原道では無償給食実施学校の比率が85.9%である。2014年には、高校まで100%を目標に無償給食を行う予定である。これにより保護者の負担が減り、経済効果がよみがえる、教育としての給食の位置づけも参考になる取り組みである。

※「ESDプログラム」とは、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動。

つまり持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

■意見交換会

・スマートフォンやネット過多使用と予防の取り組みについて

① 子どもの「ネット依存」急増による取り組みを開始。危険な生徒の発見やその支援を学校で行い、学校が把握する。保護者には年2回の特別教育を行っている。予防の教育である。

「ネット依存症」「ネット中毒」と思われる生徒には、相談や家庭訪問などを行い治療が必要だと判断された生徒は、保護者の同意を得て病院に紹介して治療できる体制をつくっている。

② 学校と家庭、そして医療、行政と連携して子どもをネットから守っていく必要がある。

③ 韓国も日本と同様にラインによる「いじめ」がある。学校では使用は禁止されている。

④ いろいろな対策が先進的に行われているが、一方では大人がネットを使っている以上、子どもに使わないように言うのは難しいという保護者からの意見も多かった。

■学校給食試食

学生と同じランチルームで試食し、食器から日本とは異なり、環境にやさしい無償給食である。

(3) 玄川高等学校訪問 (ヒョンチョン)

■学校紹介

今年(2015年)開校した公立のフリースクールの高校である。現在1学年のみで家庭的、経済的に困っている家庭(定員)30名、新しい教育を受けたい子(定員)15名の合計45名の全寮制の学校で、24名の教師と生徒がひとつになったの共同生活を行い、共有教育が行われている。

2年後は、45名×3学年の135名の生徒がこの学校で学ぶ予定である。

授業は、多様な現場体験学習が行われ、建築、木工、製菓、マルチメディア、ファッション、社会創業など広分野による特別教科があり、各学期ごとに自分が選んで学習し、いろいろな体験から将来自立できるようにするのが目的である。時間割は午前:教科の学習、午後:各専門の体験教科学習、夕食後:部活動を行っている。韓国では夜遅くまで勉強する学校が多い中、自分のやりたいことを実際に体験により探し、どんな人間になるのかを考えたりする「型にはまらない教育」が行われている。

■意見交換会(学校と保護者)

・学校についての質問

① 希望生徒はどこから、学費、進学はどうか?

江原道内の生徒を受け入れている。学費は無料。大学入学の教育はしていない。

② 子どもを通わせてどうか?

自分の適性を見つけ、特別な授業をうけることができるのが魅力である。社会へ出る前にここでなるべく多くの体験をして、将来の自分の人生をゆっくりと考えてほしいと保護者からの意見があった。

③ 全寮制だが寂しくないか?

週末は家に帰って家族と過ごす時間がある。

■江原道学校運営委員会との意見交換

学校運営委員会とは、学校、地域、保護者の代表で構成されている委員会である。

・PTA組織の問題点及び活性化、教育の考え方の違いについて

① 韓国もPTAへの参加率が年々低下している。これは大家族から小家族になると同時に、個人主義的考え方の親が増えてきている傾向にあると言える。

② 学校の授業以外に放課後は補習の授業を受けたりその後塾に行ったりして、勉強面はとても充実していて、夜遅くまで勉強ができるが、その分、家庭でご飯を食べることが少なく、朝食から夕食まで学校で済ませる学生も多い。よって生活習慣の教育が必要になり、学校と家庭が連携して行うことが今後の課題である。

4人の子どもの育てているが、一緒にご飯を食べてことがいつだったか?思い出せないほど子どもは毎日夜遅くまで一生懸命勉強しているという保護者からの意見もあった。

③ 保護者同士の仲間づくりは、スマホを使って行われることもある。アプリを通じた保護者のグループもある。実際には学校からの情報がSNSを使って連絡が入ってくる。生徒の教育活動、行事、給食のメニューなど、学校や子どもたちの様子がよく分かる。例えばその日の給食メニューの話題で親同士が盛り上がることもたびたびである。

(4) 江陵鏡浦壺及び船橋荘

■江原道有形文化財視察

江原道地域でもっともきれいに残されている、朝鮮時代の上流階級の品位ある邸宅を代表する場所でもあり、船橋荘は宿泊機能も備えている。敷地内には、韓国の民家の庭園やあずまやなども楽しめる文化財を視察した。

(5) 松壤初等学校訪問 (ソンヤン)

「小さな学校の希望づくり」(小さな学校を生かす事業)

■学校紹介

韓国では産業化が進むと同時に農村から都会への人口流出が始まった。農村部にある、この学校は、子どもが少なくなり 2006 年には学生数 23 名となり閉校の危機が訪れた。そこで江原道教育庁での、「小さい学校を生かす事業」の取り組みを活用して、学校に地域の特性を活かしながら独自性を取り入れ、必要な予算を使って、外国語特性化教育によるグローバル時代の人材養成に力を入れる教育を行なった。その結果として学生数が年々増加していき、2015 年には 130 名となり、さらに同窓会、地域社会、教職員みんなの努力により閉校の危機を乗り越えた。現在はこの学校を希望する者が増え定員オーバーとなり施設も増築しないと対応できないほどで、入学の受け入れが難しい状況となっている。

(参考)

□ 江原道教育の指針により特色ある学校づくりとして以下の指針がある。

学校が江原道の力である。小規模の学校を生かし地域を守ります。

- ① 江原道の力として、小さな学校を統廃合から守り抜きます。
- ② 国会で「農漁村教育支援特別法案」の推進
- ③ 都市から訪ねてくる学校をつくります。

■意見交換会

・学校についての質問

① 生徒はどこから通っているのか？

ももとの地域の子どもは10人程度だが、江原道のあちこちから外国語が学べるということで、子どもたちが希望して通ったり、住んだりして学校に通っている。

② 外国語を習い始める学年とその指導の先生は？

英語は小学校3年生から教科として取り組むが、中国語と日本語は小学1年生から放課後希望者が学べるようにしている。もちろん部活動でも英語が学べる。英語5名、日本語1名、中国語1名のネイティブ教師を採用した教育が行われている。

③ 外国語の早期教育に弊害はないのか？

8歳～9歳には外国語の教育が望ましいと言われている。外国語と同時に国語もしっかり教科として学ぶので問題はないと考えている。学校で学びさらに塾でも学ばせたいと思っている親も多い。

④ 外国語特性化教育について親としてどう感じているか？

日本で8年間暮らしていた。韓国に帰ってきて教育の違いにびっくりし、かなり焦った。ここでは小さい頃から英語がみんな上手で、少し遠くに住んでいるが、この特色ある学校のことを知り、子どもを通わせようと思った。今は少し時間はかかるが毎日車で通っている。ここでの教育にはとても満足している。そしてネイティブ講師への親たちの満足度もかなり高いような印象を受けた。

⑤ 学校の閉校についての江原道教育庁と学校の考え方は？

学校は教育機関でもあるが、文化が伝承される場でもある。学校は地域での交流や情報交換が行われる場でもある。学校がなくなることは、ただ単に教育機関がなくなるだけでなく、地域社会の存続にもかかわる問題でもある。教育と文化の拠点としての「学校」を守りたいという学校側（教員）の気持ちが強かった。

・運動能力低下と体力についてどんな取り組みがされているか？

スポーツ講師派遣制度やスポーツカウンセラーにより、日常的に運動の指導している。肥満の子どもがいればその学校は減点となる。

■施設見学

校舎内はリフォームされていて、明るく活気が溢れていた。毎年PTAで協力しあって「キムチ」を漬けられているようです。校舎内にはその樽がたくさんならべられているのが大変印象的でした。子どもたちは、このキムチを毎日食べているとのこと。

6 平成 27 年度 PTA 日韓交流事業に参加しての感想

- ・初等学校、中学校、公立のフリースクールの高等学校の最新の取り組みをされている地域の特性を活かした学校へ訪問させていただいた。今後見習わないといけない考え方や組織、情報がたくさんありとても有意義な研修だったことに感謝している。
- ・韓国の教育の発展は、社会的背景として短い期間に高度経済成長の結果、「小さい頃から頑張らないと幸せになれない」という考え方が親にあり、それが教育熱の凄まじさにつながっていることがよく理解できた。そして毎日夜中まで勉強する子どもたちに、その一方で余暇はあるのか？と心配になったが、「体験活動」として1学期ごとに20日間で年間合計40日間の学校が欠席とならない、定期休暇以外に取得できる制度も充実していることを知り、いろいろなところから教育に手厚い支援がされているように感じた。
- ・「ネット依存症」や「小さな学校を生かす事業」などとても先進的なことが多かったが、保護者の方々との意見交換により、両国とも子どもを取り巻く環境や親が抱えている悩みは基本的に同じように感じた。
- ・そして今、私の住む地域の小学校も学生数減により、統廃合の問題でいろいろ議論されているところです。この江原道教育の指針による小規模の学校を生かし地域を守る「小さな学校の希望づくり」の考え方が今回とても参考になり、地域でもぜひ紹介したい制度であると思った。
- ・今回、国により制度や、考え方などいろいろとあることを学んだ。①親として子どもをどう育てるのか、②子育てに今後大切なものは一体何なのか、ということをしつかりと見極め、これからの自分にできることを新たに考えていく必要があるように思った。
- ・この研修を、こらからのPTAでの活動に役立てたい。そして日韓交流によりPTAがお互い情報交換できる機会を今後も継続されることを願っています。
この度は貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。

以上

日韓交流事業報告書

平成 27 年 10 月 13 日（火）～10 月 16 日（金）

鳥取県 P T A 協議会副会長
若月 美和子

10 月 13 日（火） 1 日目

仁川空港に到着後、春川市内で教育局長主催の歓迎晩餐会。
それぞれの代表挨拶・贈り物の交換・記念撮影。食事は日本で言う「せり」の入った鍋を頂きました。その後春川ホテルに入り、1 日目は終了です。

10 月 14 日（水） 2 日目

【 江原道教育庁訪問 】

教育広報ビデオを視聴、教育政策説明を受けました。

- 江原道教育は、学生・保護者・教職員だけではなく、教育の主体となる道民皆の参加で運営している。
- 先進国型の教室福祉のための 3 大プロジェクトとして
 - ・楽しく遊ぶ勉強のための授業福祉
 - ・ひとりひとりの夢を伸ばす進路福祉
 - ・最高の教育環境のための施設福祉となっている

【 春川デリョン中学校訪問 】

- 学年のスマートフォン及びネット依存症予防における指導方策について、
 - ・いじめはあるが加害者と被害者で集まり指導をして対策している。
 - ・生徒がスマホを持って来ていたら学校で預かっている。
- 学校給食は、バイキング方式で、生徒、教職員と一緒にランチルームで食べている。

【 横城ヒョンチョン高等学校 】

- 日韓 P T A 関係者との意見交換会
 - ・中学校から高校に入る時は自分の勉強の力で決めている（経済的な事を考えて）中学校での成績は関係ない。
 - ・夜 10 時から、寮で先生と過ごしている。
 - ・先生と生徒がとても仲が良く何事にも生徒、先生と一緒に活動している。
 - ・生徒に合わせ何事にも待つことを理念にして自分の力で出来るまで待っている。

10月15日(木) 3日目

江陵鏡浦（ギョンボデ）及び船橋荘（ソンギョジャン）視察

- ・江原道有形文化財ガイドにタイミング良く出会い、説明を聞く事が出来ました。案内して頂いた後、集合写真撮影。

【 江陵ソンヤン初等学校 】

- ・外国語教育として生徒向きの週3～4回の英語教育と週2回の日本語と中国語教育を運営している。
- ・PTAが奉仕活動、秋の運動会、教室授業支援などに積極的に参加して一緒に作っていく学校を目指している。
- ・過疎化により生徒数が減少し、20名まで落ち込んだが10名以下になったら閉校になるため、地域社会、教職員同窓会、保護者の協力により廃校の危機を乗り越え、特色ある学校教育を取り入れ、今では120名の生徒がいる。

☆鳥取県訪問団に期待する事として、

環境や食に早く慣れていただく事や、訪問者が変わるので特に低学年がなかなか慣れない

が

、その反面、発展までいかないけれどネットワークが増えお互いに交流出来るからそれは

ま

た違った意味で良いとの事でした。

以上

【 感想 】

4日間交流が出来て大変勉強になりました。

自分の学校にない物を取り入れながら子どもが安全に過ごせて発展出来るよう私も支援していこうと思いました。

貴重な体験をさせていただきありがとうございました。